

第 2 回 庄内総合高校教育基本計画策定委員会の概要

- 1 日 時 平成30年9月13日（木） 10:30～12:00
- 2 会 場 県庁 10階 1001会議室
- 3 出席者 委員長、副委員長、委員7名
- 4 報 告
 - (1) 第1回教育基本計画策定委員会の概要
 - (2) その他
- 5 協 議
 - (1) 基本理念、目指す学校像、育てる生徒像、教育目標（案）
 - (2) 各課程の目標、教育課程編成の基本方針（案）
 - (3) 各課程の教育課程（案）
 - (4) 既存施設の利活用、新校舎の概要（案）
 - (5) その他
- 6 主な意見等
 - (1) 基本理念、目指す学校像、育てる生徒像、教育目標（案）

（委員）

- (3)の教育目標について、現在の庄内総合高校と同じ文言でも構わないが、原案には「地域」という言葉がないので新たに入れてはどうか。

（委員）

- 庄内総合高校の伝統と山形初という新しさとの兼ね合いが難しい。ただし変えるべき時期に変えることが必要であり、それが今であると思う。

具体的には、一つ目は「地域」の捉え方だが、霞城学園高校が県南を含めた地域を担うとすれば、庄内総合高校は庄内地区だけでなく新庄市を含む県北地域も含むとしてはどうか。二つ目は、教育目標の「知性と情操、自立と連帯、気力と体力を培う」が基本理念や育てる生徒像等に示された「社会の変化に対応すること」と合っていないと思われる。社会の変化に対応するためには、主体的で協働的な学びが必要であり、基礎・基本の定着を図りながらも協働することが今の社会には求められるので、その視点が必要であろう。また、地域との連携・交流でも社会性は養えるが、やはり年間数十時間もある授業でも社会性を養っていく必要もあり、協働的な学びをすることでそれが可能になる。三つ目は、目指す生徒像③に「生涯にわたって活躍する意欲をもち」とあるが、現実的には社会に対応することだけでも十分大変であるので、通信制をはじめ入学してくる生徒を考えたときこの箇所についてはもう一度考えていただきたいと思う。

（委員）

- 鶴岡南高校通信制には鶴岡市からだけでなく最上地域・新庄市からも生徒が来ていることを考えれば、庄内総合高校に移ればますますその地域からのニーズが高まることが予想され

る。その意味で「地域」の範囲等を再考する必要があるのではないか。

また、鶴岡南高校山添校が募集停止になると、そのニーズも庄内総合高校が担う必要がある。多様な生徒が入学してくることが予想され、通級指導などについても今後検討する必要があると思われる。

(委員)

- 山添校には非常に手厚く指導していただいたと思っている。現在の庄内総合高校にも特別な支援が必要な生徒を受け入れてもらっているが、今後も多様なニーズに対応できる学校であってほしいと希望している。それが子供達や保護者の安心につながる。

(2) 各課程の目標、教育課程編成の基本方針(案)、及び(3)各課程の教育課程(案)

(委員)

- 総合学科の特色は系列にあると思うのだが、全日制・定時制ともに、系列の特徴や系列ごとの開設科目等について具体的に書かれていないため、教育課程の特徴が見えてこない。

(部会長)

- 全日制・定時制の系列や特徴については現在作業部会で検討中である。現在は系列ごとの科目の縛りが強くないが、新高校では系列の縛り設けることも検討している。ご指摘のことを作業部会で十分に検討し、教育基本計画に反映することができるよう努める。

(委員)

- 系列の原案には「産業クリエイト」「プラクティカル」という名称が使われているが、中学生でもイメージしやすいわかりやすい名称を望む。

(委員)

- 地域の範囲について議論になっているが、やはり庄内町の一員としてこれまで活動して、ボランティアを行ったり、逆に「ポイント講師」として協力をいただいたりしているわけだから、庄内町との連携をこれまで通り大事にしていっていただきたい。

新しい高校の枠組みは、単位制と学年制の併用という理解でよいのか。その外枠についてしっかり検討していただきたい。また、リカレント教育の視点からも、庄内総合高校でプログラミングなどの科目を開講してはどうか。

(委員長)

- 全定通の3課程を併設するのだから、併設の意義、課程間の生徒の交流についての配慮、課程間の教員の協力体制などについての記載があった方がよいのではないか。

(委員)

- 現代の生徒に合った学習方法・形態についても検討し、アピールして行ってはどうか。例えば、eラーニング、電子黒板、個別指導、学び合いなど。ところで、鶴岡南通信制ではeラーニングを導入しているか伺いたい。今ではeラーニング用の教材も多く用意されている。

(委員)

- 取り入れることができればよいと思っているものの、設備が整っていないのでeラーニングは行っていない。

(4) 既存施設の利活用、新校舎の概要 (案)

(委員)

- 通信制の独立性に配慮していただき感謝申し上げます。一方で、渡り廊下が長くなり安全管理上大丈夫かという不安がある。また、スクーリングで新しい特別教室を利用したいと考えているが、プール跡地に建設する案だと、通信棟からの距離が遠くなり利用しにくいと思われる。体育館についても、通信棟とHR教室棟の両方から遠く、使いにくいと思われる。

(事務局)

- 事務局としては、作業部会には、耐震性のない特別教室は改築し、産振棟・管理棟HR教室・体育館などの耐震性のあるものはすべて残すという前提での検討をお願いしている。策定委員の皆様にも、これを御理解の上、施設設備についてご検討いただきたいと思う。

(委員)

- 新校舎をプール跡地に建てると、グラウンドが狭くならないか心配である。また、校舎配置が今以上に分散されるように感じるが、これは工期や費用も含めた総合的な判断に基づく計画なのか伺いたい。

(委員)

- 作業部会においては、現在地に建て替える案とプール跡地に建てる案の両方を検討していただいて、本日の提案になったと伺っている。現在地に建て替える方が、工期が長く、費用も多くかかる。限られた予算の中での校舎整備なので、その点もご理解いただきたい。

(委員)

- 原案の特別教室の場所では通信棟から遠く利用しにくいですが、通信制が使用することを前提にしているのか。確かに使用頻度が低いのは事実ではあるが。

(事務局)

- 通信制が使用する前提で計画しているが、使用頻度としては全日制・定時制が高いので現時点では全日制・定時制が利用しやすいように計画している。

(委員)

- 現在の職員室を保健室に改装し、新しい職員室は新校舎に移すという計画だが、来客の対応がそれで大丈夫なのか、また事務室と離れることで事務担当と教員との連携が大丈夫なのかという不安がある。職員室の場所についてどう考えたのか。

(部会長)

- 生徒の安全管理上、保健室はHR教室と同じ棟にある方が望ましいと判断し、現在の職員室に移すように計画した。

(事務局)

- 事務室と校長室は現在の場所に残るので、正面玄関から来客があった場合でも対応できるようになっている。

(委員)

- 鶴岡南高校の例をあげると、職員室と事務室が離れており連携が取りにくいとの声がある。校舎計画の参考にしていきたい。

(委員)

- トイレについて、LGBTの方などへの配慮で、最近ではだれでも使える多機能トイレを備えた施設が多くなった。このトイレがどこかにあった方がよい。

(委員長)

- 新校舎はプール跡地に建設し、また、定時制のHR教室は全日制と別棟にせずHR教室棟の4階にするという方向で検討を進めることでご理解いただき感謝申し上げます。

以上